

## 2 選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

### (1) 観点ごとの分析

観点 B - 1 - 1 : 大学の教育サービスの目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい、計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が周知されているか。

#### 【観点到に係る状況】

本学の理念には3つの使命が記載されている。その第3が「開かれた学術・教育の地域拠点の形成」である。具体的には「東北地区有数の総合大学として、地域や社会に広く門戸を開放し、様々な学習機会の提供、社会人・留学生の積極的な受け入れ、産官民との広範な連携を推進するとともに、アジアと日本を結ぶ教育・研究の拠点として学術・文化の発信、及び国際交流の充実・強化を図る」ことである（別添資料B-1-1- 「山形大学の理念ウェブサイト」参照）。それを受け、本学の中期目標に明示し、それを達成するための方策は中期計画及び年度計画に定めている（別添資料B-1-1- 「中期計画及び平成18年度年度計画」参照）。これらは、学内外に対して全学・各部局のウェブサイトに掲載して公表している（別添資料B-1-1- 「情報公開法第22条に規定する情報ウェブサイト」参照）。さらに、公開講座など市民に対する教育サービスは、キャンパスが位置する市の広報などに掲載し周知している（別添資料B-1-1- 「山形大学公開講座実施一覧ウェブサイト」参照）。

#### 【分析結果とその根拠理由】

正規課程の学生以外に対する大学の教育サービスは、山形大学の理念の重要な一項目として、その方針と計画を定めるとともに、本学の中期目標及び計画に記載し、年次計画を立てている。これらの計画は山形大学や各部局のウェブサイトに掲載し、公開しているほか、山形大学案内に掲載して、機会があるごとに配布するなど学内外に周知している。大学の教育サービスに照らして、目的を達成するために相応しい計画や具体的方針を定め、これらの目的と計画が周知されていると判断される。

観点 B - 1 - 2 : 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、科目等履修生・研究生及び聴講生の受入れ、高大連携による出張講義、小・中・高等学校の児童・生徒に対する導入的科学的実験や野外学習、一般市民に対する公開講座やシンポジウムの開催、専門家に対するリカレント、キャリアアップ教育など多様に取り組んでいる。

科目等履修生や研究生及び聴講生の受入れについては、山形大学学則及び山形大学大学院規則にそれぞれ定められている。多様な目的をもった社会人などが定常的に入学している（別添資料B-1-2- 「科目等履修生、研究生等に係る規則」、別添資料B-1-2- 「科目等履修生、研究生等の受入状況」参照）。

それ以外の教育サービスの実施については、大学教育のあり方、授業法、FD、教育評価及び大学と社会の連携教育の内容や方法等を研究・企画する「高等教育研究企画センター」の中に正規課程の

学生以外に対する教育サービスを担当する学外連携推進部門を設けている（別添資料B-1-2- 「高等教育研究企画センター概要」参照）。

一方、すべての学部で、高校に対する出張講義あるいはトワイライト講義などが企画され、理系学部では、それに加えて初等中等教育の充実を目的とした体験的科学実験、市民に対する公開講座や各種シンポジウム、野外体験教育が開催されている（別添資料B-1-2- 「各部局の公開講座、体験的科学実験等に係るウェブサイト」参照）。

学部が開講している公開講座や体験実験などは、学部の地域貢献関連委員会等で立案され、実施状況はウェブサイトに掲載されている。附属図書館では、学外者に対する図書の閲覧サービスも行っている（別添資料B-1-2- 「附属図書館利用案内に係るウェブサイト」参照）。さらに留学生センターでは、日本語が不十分な正規留学生に対して日本語研修コースを開講している（別添資料B-1-2- 「留学生センター日本語研修コースのウェブサイト」参照）。これらの内容は、山形大学ウェブサイトとリンクして各部局の関連サイトに掲載され公開されている。

本学の特記すべき正規課程学生以外に対する教育サービスには「エリアキャンパスもがみ」の設置がある。これは、県内でキャンパスが置かれていない唯一の地域である最上地域に対し、全学体制で様々な教育サービスを展開している点である。この実施状況は大学の専用ウェブサイトで公開されている（別添資料B-1-2- 「エリアキャンパスもがみに係るウェブサイト」参照）。

#### 【分析結果とその根拠理由】

山形大学の理念の大学の使命に基本的な目的・方針が記載され、それを受けて様々な教育サービスが展開されている。具体的には科目等履修生や研究生及び聴講生については、定常的に入学者が確保されている。それ以外の公開講座、出張講義などの多様な教育サービスの実施状況は、全学・各部局のウェブサイトで公開されている。加えて、キャンパスが置かれていない唯一の地域である最上地域に対しては「エリアキャンパスもがみ」を設置し、県内にサービスを楽しむことができる空白地域がないよう配慮し、正規課程学生以外に対する教育サービスを行っており、計画に基づいて適切に実施されていると判断する。

観点 B - 1 - 3 : 活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されているか。また、活動の実施担当者やサービス享受者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

#### 【観点に係る状況】

正規課程の学生以外の科目等履修生・研究生・聴講生は、すべての学部で受け入れている（別添資料B-1-2- 「科目等履修生、研究生等の受入状況」参照）。本学は、キャンパスが県内3地域に分散していることから、長年、キャンパス毎にそれぞれの地域に対する社会貢献を継続的に実施しており、市民に定着している教育サービスも多い。高大連携による高校への出張講義は、要請件数が年々増加傾向（平成16年度は26校であったものが平成17年度は65校で実施）にあり、県内だけではなく宮城、福島県など近隣の県の高校からの要請が増えている（別添資料B-1-3- 「出張講義の実績に係るウェブサイト」参照）。理・工・農など理系学部が行っている公開講座等は、参加者数が定員を超える企画が多く、十分に定着しているものと判断される（別添資料B-1-2- 「各部局の公開講座、体験的科学実験等に係るウェブサイト」参照）。これらの活動は、次の企画にフィードバックするため、その終

了時に実施担当者や参加者に対するアンケート調査を行って、今後の要望等を調査している。これらの活動に対しては好評を得ている（別添資料B-1-3- 「公開講座等の受講者アンケート集計結果」参照）。

「エリアキャンパスもがみ」は、全学部の教職員が参加し、市民の参加者も多く（平成17年度事業における地域住民の参加者は延べ2,156名）、参加者からも好評である（別添資料B-1-2- 「エリアキャンパスもがみに係るウェブサイト」、別添資料B-1-3- 「エリアキャンパスもがみの参加者アンケート集計結果」参照）。

#### 【分析結果とその根拠理由】

科目等履修生や研究生及び聴講生は、すべての学部で受け入れており、その数も定常的であり目的が達成されている。本学は分散型キャンパスを有するため、キャンパス毎に地域に対する様々な社会貢献に力を入れており、地域の教育・文化の中心地として位置付けられ、長年、市民に定着している教育サービスは多い。公開講座・科学実験・野外学習などの参加者数は、定員を超えているものが多く、十分に定着しているものと判断される。また、次の企画にフィードバックするため、講座等の終了時に実施担当者や参加者にアンケート調査を行い、今後の要望・評価を調査しているが、結果が良好なことからいずれの活動も成果が上がっていると判断できる。

観点B - 1 - 4： 改善のためのシステムがあり、機能しているか。

#### 【観点到に係る状況】

正規課程の学生以外の科目等履修生や研究生及び聴講生の受入れに関しては、各学部の教務関連委員会が担当しており、受入れにおいて生じた問題はこの委員会で検討され改善される。高大連携による高校への出張講義や市民に対する公開講座などについては、学部ごとに対応組織が異なる（人文学部は社会連携推進委員会、医学部は公開セミナー小委員会・広報委員会、地域教育文化学部では広報委員会、理学部・工学部は地域貢献委員会、農学部は入試委員会、地域連携推進委員会）が、いずれも参加者からのアンケート調査をもとに、要望や意見を分析し、次の企画にフィードバックされるシステムがあり機能している。

#### 【分析結果とその根拠理由】

教育サービスの改善は、各学部の担当する委員会などが、年次実績を分析し、参加者には適宜アンケート調査を行うなど、要望の把握や問題点の確認を行っている。また、公開講座や科学実験、野外での体験実習なども、それぞれ担当する委員会が、参加者や担当教員に対するアンケート調査の分析などを行っていることから、内容の改善をするシステムがあり機能していると判断できる。

### （2）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

### （3）優れた点及び改善を要する点

## 【優れた点】

本学のキャンパスは、県内の3地域に分散しており、それぞれのキャンパスがその地域に特徴を持つ教育サービスを担当している。

キャンパスが位置しない県内唯一の地域である最上地域に対しては「エリアキャンパスもがみ」を設置し、県内にサービス享受の空白地域がないよう配慮し、全学体制で教育サービスを積極的に展開している点は特に優れている。

## 【改善を要する点】

科目等履修生や研究生及び聴講生の制度については、ウェブサイトなどでの掲載を含めた周知を一層進める努力の継続が必要である。

公開講座は、学部単位で行っているため参加教員の専門分野がある程度限られることや、毎年類似したテーマに偏る傾向があるため、多くの教員の積極的な参加による多様な内容を提供できる方策も必要である。

## (4) 選択的評価事項 B の自己評価の概要

本大学の理念の第3番目に、「開かれた学術・教育の地域拠点の形成」がある。そこでは「東北地区有数の総合大学として、地域や社会に広く門戸を開放し、様々な学習機会の提供、社会人・留學生の積極的な受け入れ、産官民との広範な連携を推進するとともに、アジアと日本を結ぶ教育・研究の拠点として学術・文化の発信、及び国際交流の充実・強化を図る」ことを記載している。このように、本学では正規学生以外に対する教育サービスを任務の重要項目と規定して、中期目標・計画に記載し積極的に取り組んでいる。具体的には、科目等履修生・研究生及び聴講生の受入れ、高大連携に基づく出張講義、小・中・高等学校の児童・生徒に対する体験的科学実験や野外実習、市民に対する公開講座やシンポジウムの開催、専門職在職者へのリカレント、ブラッシュアップ教育などである。

科目等履修生・研究生・聴講生は、定常的に受け入れている。高大連携による出張講義、小・中・高等学校の児童・生徒に対する導入的科学実験や野外実習、市民に対する公開講座やシンポジウムの開催、リカレント教育などの研究を行う「高等教育研究企画センター」を設置している。高大連携による出張講義は、山形県を中心に宮城・福島など近隣県の高校からも要請が増加しており、今後益々この傾向が続くものと考えられる。

公開講座や小・中・高等学校の児童・生徒と一般市民対象の科学実験・野外実習の実施については、内容や日程、参加者の応募方法を全学・実施学部のウェブサイトに掲載し学内外関係者に周知している。また、キャンパスが所在する市の広報(市民だより)にも掲載し周知している。公開講座は、キャンパスが所在する市で行うだけでなく東京でも開講し平成17年度は12講座を実施した。

公開講座や体験実習などの参加者に対し終了後のアンケート調査によると、概ね満足した回答が得られている。アンケート調査の解析結果を基に、実施学部の関連委員会において総括し、改善に向けフィードバックするシステムも機能している。

このように、本学は地域分散型の総合大学という利点を活かし、各キャンパスが地域の教育・文化の中心地としての役割を認識し、各地域において特色ある活動を行っている。キャンパスが置かれていない最上地域に対しては、「エリアキャンパスもがみ」を開設して、全学体制で教育サービスを展開している点が特筆される。